



からはーい

2011年第2号 2011/08/23

## 総領事 ご挨拶

台風やお盆休みなどもありましたが、相変わらずせわしい夏が続いております。近々の2、3週間は当領事館では、英語教育、技術革新、地域の起業家支援等に焦点を当てて取り組んでまいりました。先週は英語教育の専門家をお呼びして、沖縄本島、石垣と宮古で英語の先生方への講習会を主催いたしました。今回の「からはーい」では韓国のイングリッシュ・ビレッジ・プログラムの成功事例について少し踏み込んで紹介を致します。このプログラムの事例が、おそらく返還軍用地開発の一端を担うも [続き](#)



## ★ 総領事館イベント情報 ★

講演会：第2回OPAC防災講座～東日本大震災から学ぶ～

日時： 2011年8月26日（金）18:30～20:00

会場： 那覇JC会館

趣旨： 東北大震災直後に米軍の人道支援・災害救助活動はどのように展開されたのか、「トモダチ作戦」の調整官でもあったグリーン総領事が講演。

詳細：[コチラをクリック！](#) [続き](#)

## 米軍再編—普天間移設

沖縄国際大学にヘリコプターが墜落して7周年を迎えて開催された集会は、MCAS普天間の返還を望む地域住民の思いを再確認するものとなりました。残念ながら過去2年間の政治情勢は、私達の基地返還の努力を減速させるものでした。去った“2+2”協議会において日米両政府は、諸々の事情による遅延により2014年の工事の完了が不可能であると認識しましたが、両政府は引き続きこの案件の解決に向けて取り組むことを確認しました。

現在移設を前進させる鍵となるのは、地元の皆様の理解と協力です。基地の整理縮小並びに再編を実現する為に日米両政府が独自でできることには限りがあります。日米両政府は多くの沖縄県民が県外移設を望んでいることを理解しています。しかしながら、ちょうど騎兵隊が馬を頼りにするように、海兵隊はヘリコプターを頼りにします。日米はKC-130を普天間から岩国へ移転することには合意しました。しかしその一方でヘリコプターの限られた航続距離は離着陸場を沖縄に維持することを必要と [続き](#)

## エコノミック・パルス

米国国立科学財団東京事務所長、サンゴ礁研究ネットワークプロジェクトで沖縄訪問

米国国立科学財団東京事務所のアン・エミグ所長が7月19-20日と沖縄を訪問し沖縄科学技術大学院大学や琉球大学熱帯生物圏研究センターの研究者達と東アジアサンゴ礁研究ネットワークプロジェクトについて話し合った。このプロジェクトは米国と日本、台湾、オーストラリアの科学者、教育者そして学生からなる国際チームで構成されており、サンゴ生物学やサンゴの育成を脅かす環境、特に基礎生殖生物学や上昇しつつある海水温度に対するサンゴの遺伝能力について研究するもので、米国ではオレゴン州立大学のバージニア・ウェイス博士がこのプロジェクトを率いています。 [続き](#)



領事館にて取材を受ける  
アン・エミグ所長

## 広報コーナー

最近、基地担当のレポーターを対象にしたメディアツアーで韓国を訪問した際に京畿道英語村パジュキャンプに立ち寄りしました。京畿道英語村は韓国にある12の英語村の中でも最大のもので、その設立の目的は日常的に外国人と会話をしたり触れ合ったりする場を提供することで、世界に通用する市民を育成すること、となっています。このような [続き](#)

## ウランダぬ風

トモダチ作戦で通訳を務めたヴェロニカ・コックス兵長の記事です。 <http://sankei.jp.msn.com/life/news/110805/trd11080522490027-n1.htm>

米国国立科学財団アン・エミグ東京事務所所長の記事です。 [http://www.okinawatimes.co.jp/article/2011-07-25\\_20989/](http://www.okinawatimes.co.jp/article/2011-07-25_20989/)

[続き](#)



## 総領事 ご挨拶（続き）



生徒役になってアクティビティに参加する  
英語教師の皆さん

のとして、外国語の能力向上と県外国外からの観光客の誘致を促進する為、沖縄に転用して生かされることを希望します。更に、当総領事館では、沖縄県情報産業協会、沖縄県情報通信関連産業連合会の共催、並びに沖縄国際大学の後援を得まして、スタンフォード大学のリチャード・ダッシャー教授をお招きして、ハイテク産業の起業機会に関する講演会を開催いたしました。ハイテク産業起業はルース大使の 最優先課題で、大使は特に極東地域において、沖縄が技術革新の中核を担う潜在的可能性について強い印象を受けています。OISTに代表される世界レベルの研究施設、開かれた国際的人材、世界の最もダイナミックな地域の中心に位置する沖縄は、益々技術革新に牽引される世界経済の繁栄にとって適地であります。

[1ページ目に戻る](#)

## 広報コーナー（続き）



英語村の移民局で入国審査に臨む  
入国者

施設は沖縄県にとっても教育・経済の両面で良い効果を生み出すのではないかと考え、視察を行いました。

英語村のコンセプトは体験型の教育やエンターテイメントを提供することです。京幾英語村の施設は、英国にある古い町そっくりで、外観がお城のような建物や映画ハリー・ポッターに出てくる長いテーブルやシャンデリアが置かれている食堂等が配置されています。

この英語村では現在79名のネイティブ・スピーカーである英語教師が働いています。子供たちは英語村に到着するや否や、英語体験が始まります。まずは税関を通過して、自分たちの渡航（来園）の目的を英語で係官に説明しなければなりません。そこを通過すると病院への通院や科学実験、またスポーツイベント等に全て英語で参加していきます。英語村内のお店は全て英語の話せるスタッフが配置されていますので、子供たちは英語の練習をしながら買い物をするようになります。また、劇場棟もあり、たくさんの劇や演劇講座等が英語で行われています。家族と来て1日を過ごすことも出来ますし、また寮に宿泊して長期プログラムを受講することも可能です。

京幾道英語村は地元政府の資金によって設立され、プログラムは園児を対象としたものから、上級者を対象としたものまであります。プログラムの期間は1日から数カ月に亘るものまで様々なものが用意されています。英語村の講座料金はとても安く抑えられていて、経済的に恵まれない家庭の子供でも参加できるようになっています。英語村は海外で勉強してみたいという子供たちが海外へ飛び出す前に訪れる場所となっているのです。

もし沖縄県が同様な英語村構想を導入したとしましたら、沖縄の若い世代の皆さんの英語力を高めるだけでなく、本土や台湾、中国等の近隣のアジア諸国からの観光客の増加につながると思います。また、これまでの米国と沖縄の密接なつながりがありますので、「アメリカン英語村」構想の導入は難しいことではなく、両国の絆をさらに深めてくるものになるのではないかと期待しています。



英語村のメイン庁舎

[1ページ目に戻る](#)



## 米軍再編—普天間移設（続き）

することも現実です。加えて、普天間は国連の指令基地を含め、戦略上不測の事態に対応する重要な役割を担っています。その機能を失うことは我々の平和維持能力、及び日本と極東地域の我が国の民主同盟国と友好国に対する条約上の責任を履行する能力を低下させます。

一部の沖縄県民は、アメリカの国家財政危機が米海兵隊撤退を含む米軍基地の沖縄駐留を縮小に至らしめることを望んでいるようです。現実はその逆です。北朝鮮の挑発行為、東シナ海や南シナ海における摩擦等に鑑み、たとえ中近東や世界の他の地域での軍事予算の削減が検討されようとも、東アジアは軍事予算の最優先順位であり続けます。事実、唯一沖縄に関して議会で実質上議論の対象になっているのは、8,000人の海兵隊員をグアムに移転する財政的余裕があるかどうかということです。多くの議員が海兵隊を沖縄に留めることが、安くつき、戦略的に有利であると主張しています。

オバマ政権は日本政府との間で、MCAS普天間を含む嘉手納以南のパッケージの一部として海兵隊を移転するとの国際合意があるということを描いています。しかし、その合意が履行されない場合は、経費削減の見地からグアム移転の再検討を要求する声が高まることは避けられないでしょう。

普天間の継続使用を避け、8,000人の海兵隊員の移転と嘉手納以南の基地返還の財源を確保する為には、イデオロギーや感情を超えて沖縄の将来を冷静に考えることが重要で今がその時です。誰もこの問題を次の世代まで引き伸ばすことを望んでいません、特にMCAS普天間の周辺に居住する皆さんは。

[1ページ目に戻る](#)

## ★ 総領事館イベント情報 ★ ((続き))

講座：ソーシャルメディア講座

日時： 2011年9月10日（土）9:30～16:00

会場： 浦添市立図書館 AVルーム(2F)

趣旨： 今話題のソーシャルメディアについて分かりやすく解説！災害時におけるソーシャルメディアの重要性についての講演やTwitterやFacebookのはじめ方などをデモンストラレーションします。

詳細： [詳細はコチラをクリック！](#)

コンテスト： 第4回琉球新報英語スプリングコンテスト大会沖縄県大会

日時： 2011年9月24日（土）予選 9月25日（日）本選

会場： 琉球新報大ホール（泉崎ビル）

趣旨： 「沖縄の地域性・優位性を生かした英語教育の発信」のフォーラムの提言を受け、学校の英語教育における実践的なコミュニケーション能力の向上策として学校・個人間で楽しみながら磨き競うことにより、沖縄県の英語教育の改善・充実に資することを意図する。

[1ページ目に戻る](#)



## エコノミック・パルス(続き)

今年の秋頃に、琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設で最初のワークショップ開催に向けての準備が進められています。広範囲の科学の専門家が一緒になってサンゴ生物学を研究するというのは初めての取組みで、研究者や学生にとっても科学教育やアウトリーチ活動そして国際経験に関わる良い経験になります。沖縄の素晴らしい環境の中で開催されるワークショップに是非注目して下さい。

### ダッシャー博士、沖縄国際大学で講演

7月28日に、スタンフォード大学工学部アジア・米国技術経営研究センター所長のリチャード・ダッシャー博士が沖縄を訪れ、沖縄国際大学にて約150名の聴衆の前で「技術変革におけるビジネス機会を予測すること： シリコン・バレーから見て」という演題で講演した。ダッシャー博士の講演会に先立って地元紙が掲載したこともあって、大学生、高校生、IT企業経営者、技術者、県職員に加えて一般からも多くの参加者がいた。

講演では、イノベーションの重要性、特に産業構造や生活に画期的なインパクトを与える「破壊的イノベーション」の重要性について強調し、グーグルが広告産業にもたらした変化やアップルのiPodの企画から製品化の課程、その後のコンテンツの提供方法の変化について説明した。それは、社外からの知識(アイデア・機会・リソース)を社内の研究リソース・活動と統合して、最高水準の成長を目指す、「オープン・イノベーション」といわれるもので、アップル社のiPadをケース・スタディーの実例として説明し関心が高まっていると述べた。また、シリコンバレーにおける起業文化や新規企業の成長、必要とされている環境について説明した。そして最後に、最近のシリコンバレーのベンチャーキャピタル投資からみたパターンで、近い将来ではITサービス、中期的には環境・エネルギー分野、長期的には医療関係の分野での可能性が高いと述べた。

講演に続いて、ダッシャー博士と沖縄のIT企業経営者とのパネルディスカッションと質疑応答を行い、沖縄の企業が海外に向けて活動するために必要なことなど活発な意見交換が行われた。



リチャード・ダッシャー博士(左端)パネルディスカッションのパネリストとして、株式会社レキサスの比屋根 隆社長、サイオンコミュニケーションズ株式会社の沈 大維社長、沖縄コンピュータ販売株式会社の小渡 玠社長と意見交換を行いました。

[1ページ目に戻る](#)



# ともだちのともだちはアメリカ人

2011年3月11日(金)  
 宮城県沖130kmの海底で  
 マグニチュード9.0の地震が発生し、  
 これにより大津波が発生し、  
 死者・行方不明者2万人以上、  
 24万戸以上の建物が被害を受けた。  
 復旧・復興のため世界中からボランティアが被災地に集まった...

ただいまー！  
 今、被災地のボランティアから帰ったヨー。  
 やっぱ沖縄が一番やさー  
 ぽんぽん  
 ぽんぽん  
 ぽんぽん  
 お前！！  
 ガイガーカウンターが反応してるぞ！お前は沖縄を放射能汚染するよな！！

何!?それが犠牲を払って被災者を救済してきた者に対して言ってるのか? それでもともだちかい?!!  
 はっ  
 たしかにそうだ!!  
 俺は安全な所にしたか  
 いなかったんだ!

ゴメンヨー  
 ともだちー  
 いーえー  
 ゆるすヨーともだちー  
 ワタシモ  
 ヒバクシムシタ  
 ミシシムシ  
 トモ  
 ダチ  
 ドーカ  
 サバツハチイデ